

この人に会いました



湯沢町観光協会専務理事
上村信男さん
(湯沢町神立)

・専務理事の就任に当たり
抱負をお願いします

8月1日より勤めています。白井前会長のご逝去と新協会長の選任、駅構内の広域観光情報センター開設や役場第一分館への事務所移転、加えて各イベントの開催などがあり、大変忙しい日が続いています。そんな中、この職務のやりがいと重要性を日々痛感しております。微力ではありますが、過去の経験を生かし、町観光の活性化と発展に寄与できればと考えています。

・簡単にプロフィールを聞かせてください

神立の出身で六日町高校を卒業の後、東京で4年間の学生生活を含め10年間に過ぎました。昭和54年に地元へ帰り、ニューオータニリゾートに入社。以来26年間、湯沢や長野・富山両県にあるグループホテルに勤務し、その内15年間は支配人職でした。退職後は金融機関の招聘で長野県蓼科地方のホテルで経営企画を担当し、湯沢の旅館で仕事をした後、現職に就きました。

・観光産業の低迷が続いています。特にスキーシーズンの動向に不安があります
が、それらの対策は
当町観光の核のひとつが冬季スキー観光にある点は紛れもない事実であり、極めて重要だと認識しています。業界低迷の要因は、経

済環境の他、少子高齢化やグローバル化、消費動向の変化と多様化等、多岐にわたると考えています。沖縄や都市観光などは過去にない隆盛を迎えており、同様に、他にも発展を遂げている地域が多くあります。

当湯沢町は前述の雪とスキーをはじめとした多くの観光資源を保有しています。また、我々が持つ優位性は交通アクセスや立地性だけでなく、現在の旅行ニーズやキーワード、具体的に健康や癒し・感動・体験などにフィットした資源と環境が多くあります。

先日知った言葉に、自助・他助・官助と云うものがあります。正に、全町民が一体となって知恵を出し合い協働することが、今、求められていると思います。

・雪国観光圏が認定されましたが、今後の取組みはどう考えますか
この10月に発足したばかりの官公庁の目玉事業で、

補助金などの各種支援が受けられる制度ですが、当町にとっても近隣地域にとっても意義深い決定です。特に、他県を含む7市町村の参画は他には類を見ないもので、自治体の枠組みを超え、雪国の特色を生かした観光地作りを目指す画期的な施策です。それだけに事業の推進には多くの労力が必要ですが、参画市町村の官民挙げた協力で、実りあるものにしていかねればならないと考えます。

・インタビュを終えて
明日から九州へ修学旅行の誘致のために出張するという、忙しい中を快く応じていただきました。笑顔のすばらしい穏やかなお人柄でした。湯沢町観光の再生、発展のために牽引役として頑張っていたいただきたいです。

お互いに抱き合い涙する感動的な場面は、家族との絆を再認識させられた。家族や地域との絆が希薄になり、成人式での若者の傍若無人な振る舞いが、全国的な問題となっていることを払拭させる素晴らしい成人式だった。家族、地域に感謝し、ふるさと湯沢をこよなく愛することからスタートする君たちの未来に大きな期待をかけた。そして日本一の成人式を自らの手で企画し、実践した新成人の皆さんに絶賛の拍手を送りたい。

真夏の「湯沢町成人式」が8月14日公民館で行われた。式典の後、新成人が企画した「I♡Y湯沢人だよかった」をメインテーマにしたイベントに参加した。湯沢に生まれ、地域に育てられてきたことへの感謝と自分たちが湯沢人であったと思えるような未来を築いて行きたいという決意のもと、新成人が20年間を振り返り、家族とのかかわりを通じた感謝の気持ちをこめた家族への手紙が発表され、会場にきた家族に渡された。

編集後記

「絆(きずな)」

日本一の成人式

お互いに抱き合い涙する感動的な場面は、家族との絆を再認識させられた。家族や地域との絆が希薄になり、成人式での若者の傍若無人な振る舞いが、全国的な問題となっていることを払拭させる素晴らしい成人式だった。家族、地域に感謝し、ふるさと湯沢をこよなく愛することからスタートする君たちの未来に大きな期待をかけた。そして日本一の成人式を自らの手で企画し、実践した新成人の皆さんに絶賛の拍手を送りたい。

広報委員 南雲 正

編集 湯沢町議会 広報常任委員会

広報常任委員会 森下 昌次 田村 正幸